

東村山の 空襲と学童疎開

東村山 あれこれ
図書館の資料から
東村山に関連した
情報をテーマ別に
紹介します。

戦後60数年が経ち、戦争を知っている方が少なくなっていますが、東村山にも空襲や学童疎開がありました。図書館の資料の中から、東村山の空襲や学童疎開について書かれているものを紹介します。

【図書】 ご覧になりたい方は職員にお尋ねください。()内は図書の背ラベルにある請求記号です。

『あの日々の記憶 一東村山の空襲と学童疎開一』

東村山ふるさと歴史館／編集 東村山ふるさと歴史館 2007年(213.65ア)
平成19年4月から6月に開催された企画展の図録。東村山の空襲を、体験者の当時の記憶、公文書等の記録、米軍の公的記録などから検証。東村山に学童疎開して来た東京女子高等師範学校附属国民学校(現在のお茶の水女子大学附属小学校)と赤坂国民学校の児童の日記・絵日記・体験談、公文書や当時の町長日記より、学童疎開の経過をたどる。

『東村山市史研究 第14号』

東村山ふるさと歴史館／編集 東村山市 2005年(213.65ヒ14)
p1-20: 聞き書き 梅岩寺への集団疎開
太平洋戦争中に梅岩寺に集団疎開をしていた4名の方々と、当時児童の賄いをしていた方との座談会記録。
p21-48: 東村山町学童集団疎開受け入れ小史
一学童疎開事前調査を視野にいれて一 古橋 研一
東京都によって行われた学童集団疎開発案から実施まで調査の検証、東村山町に学童集団疎開して来た東京女子高等師範学校附属国民学校(現在のお茶の水女子大学附属小学校)と赤坂国民学校についての論文。

『多摩のあゆみ 第35号』

多摩文化資料室／編集 多摩中央信用金庫 1984年(213.65ヒ35)
《太平洋戦争中の東村山 東村山郷土研究会》
p58-62: 〈私の宝物〉『戦時中の日記から』 立河 光子
昭和19年から20年にかけての東村山の様子が書かれています。
p62-64: 秋津の空襲 小池 紀枝
昭和20年4月2日、24日に秋津地域にあった空襲の様子が書かれています。
p66-67: 学童疎開 影山 葉子
昭和19年8月に赤坂国民学校の児童が梅岩寺に疎開した時の様子が書かれています。

『東村山周辺のいくさの歴史』

東村山郷土研究会／編 東村山郷土研究会 1978年(213.65ト)

p14: 外国との戦争と東村山 太平洋戦争 p15: 学童疎開

追記 p1-3: 東村山空襲の記録

昭和20年2月、4月の当時の空襲の状況を詳しく記した立河光子氏の少女時代の日記です。

追記 p4-6: 東村山と学童疎開 (追記)

昭和19年8月に赤坂国民学校の児童が梅岩寺に疎開した時の様子が書かれています。

『小池喜八日記』 東村山市 2006年(213.65コ)

明治43年から昭和17年の31年間にわたり、化成小学校長を勤め、昭和17年より21年まで東村山町長として太平洋戦争中の町政を担った小池喜八氏の昭和7年と19年の日記。

「小池喜八日記」解説

p13: 昭和19年7月 赤坂国民学校集団疎開児童の受入

p14: 昭和19年8月 赤坂国民学校集団疎開児童の到着

p16: 昭和19年11月 東京女子高等師範学校附属国民学校集団疎開

小池喜八日記

p115: 昭和19年7月22日(土) p171-172: 昭和19年11月19日(日)

p128: 昭和19年8月22日(火)

『東村山町教育の歩み』

下田 佐重／編著 東村山町教育の歩み刊行協賛会 1962年(372.1ト)

化成小学校に大正7年より27年余教員として、また、昭和23年から4年間校長として勤務した下田佐重氏がまとめた明治初期から昭和30年代にかけての東村山の教育について綴った資料。

p119-120: 疎开学童受入れ

p127-128: 未曾有の戦禍

p126: 第二回疎开学童受入れ

p137: 梅岩寺戦災孤児学寮

p126: 東村山も戦場

『東村山 ふるさと昔語り 一座談会記録一』

「東村山 ふるさと昔語り」編集委員会／編集 東村山郷土研究会 2007年(382.1ト)

東村山郷土研究会が地域のお年寄りに語ってもらった東村山の生活・風習等を収録したもの。

p53-54: 南秋津への空襲

p188-189: 空襲

p163-164: B29の来襲

p225-228: 爆撃の戦禍

『疎開の子ども600日の記録』

学童疎開記録保存グループ／編著 径書房 1994年(372.1リ)

東村山にも疎開した東京女子高等師範学校附属国民学校(現在のお茶の水女子大学附属小学校)の生徒によって書かれた絵日記を基に編集された戦時下の記録。

『東村山市史』 東村山市史編纂委員会／編集 東村山市 1971年(213.65頁)
p800-804：三 戦時下の東村山

『東村山市史 2 通史編 下巻』

東村山市史編さん委員会／編集 東村山市 2003年(213.65頁2)
p447-451：学童集団疎開の受入れ p488-489：東村山への空襲

『あまから民俗史』 東原 那美／著 三里舎 1989年(382.1頁)
p125-127：秋津の被災地に建つ 平和観音像

『東村山の石仏と信仰』 小林 太郎／著 多摩石仏の会 1982年(718.4頁)
p8-9：東村山の信仰と石仏 一 秋津の平和観音

昭和20年4月2日にB29が小俣健次郎氏の茶畑に墜落し、民家が23戸破損、死者が3名、B29の搭乗員も全員死亡しました。昭和35年に戦没者の供養のため、氏は私財を投じて平和観音像を建立しました。

【「市報東村山」「市報ひがしむらやま」「きょういく東村山」の記事から】

わが郷土 東村山の空襲 昭和二十年四月の記憶

きょういく東村山 第50号 平成18年(2006年)12月20日発行

わが郷土
東村山の空襲
昭和二十年四月の記憶
歴史資料係より

戦後、はや六十年が経過。戦争の記憶も薄れてきている。農村だった東村山には、空襲の標的になる軍需施設はありませんでしたが、近隣の田無には中島飛行機工場が、立川には陸軍兵器廠がありました。

そんな関係からか、東村山にも空襲による爆弾投下などの被害があったことも、記憶に留めておかねばなりません。最も空襲による被害が多かった昭和二十年四月二日と二十四日の空襲は、次のような状況でした。

四月二日、米軍は五十機のB29が編隊を組み、三鷹・田無の軍需工場などを狙って空襲を開始。大谷・久米川・南秋津のルートで進入しました。南秋津では、B29が一機撃墜され、民家一軒が焼失、二十三軒が被害を受け、三人が死亡したということです。墜落した茶畑には、直径二十m近い大きな穴があいたといえます。十数名の搭乗員は全員死亡し、遺体は密かに近くの共同墓地に埋葬されました。昭和三十五年に、墜落地に平和観音像が建立されました。(写真参照)

四月二十四日、南秋津周辺の柳瀬橋付近に、約十発の爆弾が投下され、約四十戸が爆破されて全壊しました。また、火災が発生し、東村山の空襲では、最大の大惨事となりました。

記録には、二十四日の被害は、死者三十五名・負傷者二十五名と記しています。ふるさと歴史館では、空襲を記録として後世に残すため、来年度当初に企画展「空襲と学童疎開」(仮題)を計画しています。

市内の空襲記録について情報をご存じの方、また資料などをお持ちの方がいらっしやいましたら、ふるさと歴史館(☎三九六―五二〇〇)までお知らせください。よろしくお願ひします。



ふるさと歴史館
秋津1丁目にある平和観音像

東村山市教育のあゆみ 11 学童疎開

市報東村山 昭和61年(1986年)3月20日号

『東村山市教育のあゆみ』(東村山市(372.1頁))に収録。

昭和19年8月に赤坂国民学校の児童が梅岩寺に疎開した時の様子が書かれています。

市史編さんだより 35 東村山にも学童疎開があった

市報東村山 平成9年(1997年)5月1日号

『市史編さんだより1～70』(東村山ふるさと歴史館歴史資料係(213.65シ1))に収録。

東京女子高等師範学校附属国民学校(現在のお茶の水女子大学附属小学校)の生徒が昭和19年8月から昭和20年3月まで東村山に疎開した時のことが書かれています。

ふるさと歴史だより 21 赤坂小学校の学童疎開

市報ひがしむらやま 平成19年(2007年)1月1日号

ふるさと 歴史だより 21

赤坂小学校の 学童疎開

昭和19年(一九四四年)8月22日、東村山駅に東京都赤坂区の赤坂小学校(国民学校)の疎開児童第一陣73名が降り立ちました。東村山の各戸では、国旗を掲げて歓迎したといひます。

同年、本土空襲必至と判断した政府は、縁故疎開できない児童を半ば強制的に集団疎開の対象としました。都の方針を受けた赤坂



区及び赤坂小学校は、村山村と大和村のほか、7月末から8月にかけて当時の東村山町とも折衝を重ね、正福寺及び梅岩寺と借受契約を結びました。宿舎は両寺の分宿で、総代や町議が受け入れ準備を進めました。疎開児童はそこから化成小学校に通うことになったのです。

疎開では、保護者は一人一日あたり30銭の生活費を納めました。また、寮長(赤坂小訓導)は赤坂本校と連絡を取り、宿舎の運営や食糧の調達に奔走しました。東村山町民の食糧・日用品の差し入れも、無視できない量にわたりました。

昭和20年(一九四五年)4月2日の空襲で、宿舎となっていた梅岩寺本堂が被害を受けると、赤坂小では山梨県への再疎開も検討しましたが、結局そのまま終戦を迎えました。約1年にわたる農村での学寮生活は、疎開児童にとってどのような日々だったのでしょうか。

ふるさと歴史館では、平成19年度当初に企画展「空襲と学童疎開(仮題)」を計画しています。市内での空襲や学童疎開の情報をご存じのかた、また資料等が皆さんの手元にありましたら、当館までお知らせください。

ふるさと歴史館

【関連サイト】

東村山ふるさと歴史館

<http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/tanoshimi/rekishi/furusato/index.html>

絵日記による学童疎開600日の記録(平和祈念プロジェクト21)

<http://www.h5.dion.ne.jp/~s600days/>